

# 経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和元年 10 月 11 日(金)午後1時 29 分～午後2時 36 分(9階 908 会議室)

## ○出席委員(8名)

委員 長	二階堂武文
副委員長	佐々木 優
委 員	高木 直人
委 員	川又 康彦
委 員	石山 波恵
委 員	阿部 亨
委 員	小松 良行
委 員	山岸 清

## ○欠席委員(なし)

## ○市長等部局出席者(なし)

## ○議 題

- (1) 所管事務調査について
- (2) その他

---

午後 1 時 29 分 開 議

(二階堂武文委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

所管事務調査についてを議題といたします。

前回の委員会で所管事務調査のテーマについて協議いただき、古関裕而氏にかかわる調査ということで大きなテーマを決定いただいたかと思えます。本日は、その際に皆様からいただいたさまざまなご意見を参考に、後日正副委員長手元で整理し、所管事務調査案ということでペーパーにまとめ、準備させていただいております。よろしければこれからその案を配付させていただき、それをもとに皆様からのご意見を頂戴できればと思えますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、配付させていただきます。

【資料配付】

(二階堂武文委員長) それでは、私のほうから今配付いたしました所管事務調査案を読み上げさせていただきます。

1、調査事項、古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査。

2、調査の目的、名誉市民である古関裕而氏とその妻、金子氏を題材としたNHK連続テレビ小説、エールの放映が決定し、全国的に本市への興味、関心が高まっており、本市ではこれらの機運上昇を契機として古関裕而氏や本市の魅力を市内外に発信していくため、古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーによるまちづくりを進めている。さらに、これから駅東口地区の市街地再開発が予定されている本市において、当事業の展開は町なかのにぎわいを呼ぶきっかけとなる重要施策としての意味合いも非常に大きいものとなっている。このことから、古関裕而氏を生かした交流人口の拡大と町なかのにぎわい創出について調査研究を進める。

3、調査の方法、当局説明や参考人招致、現地調査、行政視察、意見交換会等の方法により行う。

調査の期間、令和元年10月から調査完了時までの期間ということで、令和2年9月定例会議までということで案をおつくりいたしました。

では、こちらの所管事務調査案につきまして皆様よりご意見を頂戴したいと思います。いかがなものでしょうか。

(小松良行委員) 前回さまざま古関裕而氏を生かしたまちづくり事業という点において各委員からいろんな意見をいただいていたところでありましたが、この前段部分はいいのですけれども、町なかのにぎわいを呼ぶきっかけというのは確かにそうなのですが、市民が集うとか、交流の場としての位置づけというのがちょっと欠如しているような感じはします。古関裕而ロードと呼んでというようなことはあるのですけれども、だからといって人がわんさか押し寄せるということではないのだろうと。そして、エールが放映中かもしれませんし、放映後のレガシーとしてもこういったことがきっかけで音楽や芸術に対して市民の交流や、あるいは市外の活動家との交流が広がっていったのだというストーリーを考えると若干弱い気はするのですが、その点この辺の調査目的をまとめられるにあたって、委員長、副委員長手元でどのようにその点は考えられたのかちょっと確認しておきたいと思うのですが。

(二階堂武文委員長) ありがとうございます。実は前回議論をさせていただいた黒板だったのですけれども、きょうは黒板ないものですから、実は前回黒板に皆様から出していただいたこと、それをベースに委員会終了後、黒板を見ながらまとめをさせていただいたのですが、そのときの黒板の写真を撮っていましたので、黒板すぐ返却しなくてはならないということだったので、配ってご説明してもいいですか。

【資料配付】

(川又康彦委員) 今のところ関連してはすけれども、この文章の中の6行目の本市において、当事業の展開というふうに書かれているのですけれども、当事業というのは東口の再開発のことなのか、シンフォニーなのかちょっとよくわからない。両方なのですか。

(二階堂武文委員長) エールの放映をきっかけとしてやる、市で実施する古関裕而のまちづくり、シンフォニーによるまちづくり事業のことです。

では、今ちょっと資料をお配りしましたので、先日の黒板、モノクロなので、見えづらいかもしれませんが、皆さんから出していた中で、それをどういうふうにまとめるかということでしたが、皆さんから意見を出していただく終盤のときに、石山委員のほうから町なかの観光スポットの存在についてご発言をいただいた、町なか観光の観光資源というのは意外と福島市の場合限られているという視点と、もう一点、高木委員のほうから発言ありましたが、これはここに至る過程において皆様からも出たのですが、駅前東口再整備事業工事期間中の人通りとか客足の落ち込みに対する何らか対策が必要ではないかというような、これは古関裕而に限らずですね、そういったご意見も出ました。それと、私も皆様から黒板に書き出したときに調査の理由として、今小松委員のほうからもちょっと触れられて、市民交流の場という位置づけと、あとは今後予定される東口の再整備事業工事期間中の客足であったり、交流人口の落ち込み対策という、その一助となるような持っていく方というか、考え方ができないかというのが出されて、これがやはり調査の背景にはすごく大きいなというふうに考えていました。そういった中で今回のエールというチャンスを、エール放映を生かして、古関裕而氏を生かしたにぎわい創出への提言みたいな方向でまとめていくという持っていく方がいいのだろうなというのがありました。

そのときに、私も小松委員のほうからあった今まで市民交流の場というものをここにどう取り込むかということに対して、音楽を通した市民交流のイベントさまざまやられていますし、せんだつても仙台のジャズフェスティバルの話もちょっと出ました。議論する中で今回経済民生の所管事務調査として考えたときに、メインとして考えていく視点として、交流人口の拡大というか、にぎわい創出、交流人口の拡大という部分でこの調査を進めていくべきかなというのがちょっとありまして、というのはまるっきり市民交流の場という要素も当然含まれていながらも、当然ですけれども、交流人口の場合はそういった要素も市民の移動とかなんかも含まれての話ですので、当然なのですが、ただいろいろ市民の文化的な催事というか、そこの微妙さかげんはあるのですけれども。

(石山波恵委員) 交流人口の部分、市民も含まれるのですけれども、やはり今せつかくのエールと来年オリンピックということで、いかに福島に他県の人に来てもらえるような他県に対してのアピールというか、それがやっぱりどんどん、どんどん、エールが終わって、オリンピックが終わって、それで終わりではなくて、その次につながるような持っていく方というか、そこを見据えてやはり考えていくということも、もちろん市民も大事ですけれども、と思うのですけれども。

(小松良行委員) このテロップなど見てもおわかりのとおり、人を動かす事、物が大事なのだと、そ

れには人と人の触れ合いをまちづくりの中の中心に据えておかぬとならぬということと、単発的な古関裕而の今回のエールの放映でどれだけの人が来るか、来ても何か象徴的なものをつくればいいのかということではなく、常にこうした市民が集い、文化、芸術に触れる機会をふやしていくことで、連ドラのエールが終わった後でもレガシーとして残っていくような、そうした展開を期待するところであったかなというふうに、あるいは私はそのように考えておったところで、交流人口の拡大という部分において、先ほど委員長が当然市民の皆さんの交流の場ということも含まれるのだということでもありますことから、さらっと読んでいくと、町なかのにぎわい創出というところのほうにむしろ中心にスポットが当たってしまいがちになりはしないかということが若干感じたものですから、ぜひ市民の、あるいは人と人の触れ合いということ、これが将来にわたってにぎわいの創出につながっていくのだというような考え方というのを中心に据えて調査を進めていただければ、いいです。言葉尻の問題ですから、特に異存はないですが、その点確認と、そのようなことで進めていただきたいという要望をしておきたいと思います。

(二階堂武文委員長) 今小松委員のほうから人と人の触れ合い、これが将来にわたりエール放映後もにぎわいの創出につながっていくというようなご意見、本当にそのとおりだと私も思っています。人と人の触れ合いというところに市民同士の触れ合いであったり、市民とこのエールをきっかけに市外からいらっしゃる方との触れ合いであったり、そこも含めての捉え方ということを確認をさせていただいてということで、ありがとうございます。

(川又康彦委員) 私も小松委員と同様に交流人口の拡大という部分は重要な点なのかなと。前回小松委員からこちらで出していただいたのは、たしか視察先もしくは参考人招致でヤマハのおとまち等を出していただいたのではないかなと思うのですけれども、ヤマハのほうでやっている事業だと思うのですけれども、音楽によるまちづくりということで。このお膝元の浜松市で音楽によるまちづくりを積極的に展開していて、以前会派の視察だったか、委員会で浜松を訪れた際に、委員会かな。空き家関係で行ったのかな。その際に、直接は場所は関係なかったのですけれども、駅周辺に、これはコンベンションホールというか、ホールが、完全な音楽のホールでしたけれども、それを市のほうでつくって、定期的に音楽祭みたいなものを開くとか、町なかでそれこそジャズの展開をするとか、いろいろな音楽イベントを開催することで音楽を通じたまちづくりをしているというような事例もあるというのが記憶に残ってまして、エールをきっかけにして、古関裕而さんだけにフォーカスするというよりは、音楽を通じた福島市のまちづくりということまで持っていけば、今回東口のほうでコンベンションホールが当然音楽の催し物なども開かれることになるかと思っておりますので、この活用法をハードの部分での提言とかは所管がかわってしまうので、できないのではないかとはい思うのですが、できること自体は決まっているので、それをソフト的にこういったことは考えられるのではないのでしょうかということまで話が持っていければ、お話しいただいたとおり、コンベンションホールの利用促進についての提言にもつながっていくのではないかなと思ったので、視察先とか、そういった部分で

の選定についてはその辺も含めて考えていただけるとありがたいかなと思います。

(二階堂武文委員長) 本当にありがとうございます。川又さん自身のほうでまとめていただいた感じでもありますけれども、本当に音楽を通したまちづくり、特に今回は古関裕而氏をモデルとしたエールの放映という切り口での持っていく方というか、調査の方向性、まとめ方という形になっていくと思うのですが、ぜひ今のご意見も取り入れさせていただいてやっていければというふうに思います。

今回エール放映期間中につきましては、さっきちょっと言えなかったところなのですが、福島市民も多分福島市議会議員の方も古関裕而に通に相当なと思います。テレビドラマの放映通じましているんなエピソードとか、いろんなものがどんどん、どんどん古関裕而氏の情報が今までない形で共通の情報として福島市民、議員も含めて共有できるような状況になってきます。ということで、そういった意味ではこれを番組、番組は来年の9月いっぱいぐらいですか、放映後もひとつ遺産として古関裕而氏にかかわる情報というか、知識とそれによって育まれる愛着とかいうものをうまくつなげていければというふうに思っております。

(川又康彦委員) ちなみに、調査期間についてなのですけれども、9月定例会議までということで、終わったあたり、前回まで9月ではなかったような気がするのですけれども、これがこうなった経緯というか、理由についてお伺いできればと思います。

(書記) 皆さんから前回の委員会で6月提言というようなお話もあったかと思うのですが、6月提言というふうになってきますと、当然まとめが3月ぐらいから始まってということで、もしドラマの放映の盛り上がりとか、そういった部分も見据えながら委員長報告をつくっていくというふうになったときに、6月提言だとまとめの段階と6月に提言するときとでもしかしたら放映の状況とか、そういったのも変わっている可能性があるのかなというところちょっと話がありまして、であればドラマの放映の様子を見ながら、かつ終わらない段階で、フィナーレを迎えるような段階で持続可能な古関裕而さんを生かしたまちづくりという部分の観点での調査であれば、9月定例会議中であっても大丈夫なのではないかということで話あったところです。

(川又康彦委員) まだ次の部分やるかやらないかというのはあるとは思いますが、次もしやるとするとそっちが先が詰まってしまう可能性が高いような気がするのですけれども、その辺は微妙かなという気がするのですが。

(二階堂武文委員長) 多分に、私も調査の報告まとめて発表するタイミングというのはクライマックスに近づいてきた9月、結構盛り上がっているタイミングに合わせての発表で、エール放映後もやっぱりそれを生かしてこんなことをすべきではないかみたいなことで、私も最初は確信が持てなかったのですが、9月まとめるというのは。でも、いろいろ話ししてしまして、クライマックスに向けて最終的に盛り上がっているタイミングでのこちらでの報告ということで、多分関心の高い時期なものですから、それは受け入れられやすい時期でもあるし、先ほど書記のほうでも説明していただいたことも考えた上では、やっぱり9月というのがいいのではないかなというふうに思っておりました。

(川又康彦委員) 2年前に経民で一番最初に所管事務調査やったのはごみの減量化についてやって、結構やっぱりパワーかけて、その次の1年調査事項しかできなかったのです。結局参考人招致だけで終わってしまうみたいな、時間がないということで、そういう感じに、そこまで考えられてやっているのであればいいかなと思うのですが、その辺を各委員の方がどういうふうに考えられるのかなという気がしたものですから。

(二階堂武文委員長) その辺のご意見は。

(小松良行委員) 当然二本立てでいこうという前提でここまで来ているのだろうなと考えると、終わった後の次の調査を決めて仕切り出していくと、時間の都合上タイトに、お題をぐっと絞ってということであればあれなのですが、パワー的に懸念するような状況になりはしないかというのは感じます。何とかスピードアップを図りながら、6月での一応の委員長報告を目指してというか、状況によって、6月を目指して調査を進めていく中でいろいろ状況が変わって、あるいはさらに調査が深まりを必要とすることで9月になったということはあるのですが、その点はどうなのですか。先ほどの川又委員の意見に合わせてこの後、後期の部分、どのようにタイムスケジュールお考えでしょうか。

(二階堂武文委員長) 後期のテーマまだ議論をしておりませんので、とにかく後期、今までも私もいろいろ4つの常任委員会経験してまいりましたけれども、限られたスケジュールの中でのテーマ決めとか、当然中途半端な形で終わらないように、それは次のテーマを議論するときに皆さんのほうにもそこもご考慮の上に議論を進めていただければというふうには思います。

(二階堂武文委員長) ほかに何かいかがでしょうか。

(山岸 清委員) 皆さんの意見聞いているだけで十分でございます。

(二階堂武文委員長) そうしますと、大体皆さんのご意見をお伺いしたという形でよろしいでしょうか。

#### 【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、ただいまいろいろご意見、小松委員、川又委員からも頂戴しておりましたので、ちょっと案のほうを修正を……。

(小松良行委員) 私は、市民の交流というのですか、あるいは人と人との触れ合いをまちづくりに据えていくと、委員長再三おっしゃっておられる古関裕而を生かしたまちづくりという切り口の中でということであったのですが、どうもその意味合いがざくっと見てしまうと福島に古関裕而のまちづくりで来てもらう、交流人口の拡大にとらわれ過ぎはしないかという視点でした。委員長のご発言の中では、それも含めて人と人の触れ合いや人が交流する場というものも包含してのまちのにぎわい創出あるいは交流人口の拡大なのだというご説明で私は十分なのですが、またここに言葉を足すとかえって読みにくくなりますので、そういうことを包含されていると確認できただけで十分です。

(二階堂武文委員長) ありがとうございます。

それでは、こちらの案のほうに基づいて調査を進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) どうもありがとうございます。それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、今後のスケジュール案につきましても正副委員長手元で作成しておりまして、続けて確認をしていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、配付させていただきます。

【資料配付】

(二階堂武文委員長) 私のほうから今配付いたしましたスケジュール案について概要を説明させていただきますと思います。

まず、一番上ですが、10月11日、本日ですが、テーマの決定ということで第1回目になっております。それで、早速ですが、11月より具体的な調査に入っていきたいと考えております。さらに、年が明けて2月には行政視察、年度がかわって4月には現地調査、そして参考人招致の2回目、3回目を行い、7月中旬ごろからまとめに入り、9月定例会議中に報告できればという案でございます。

なお、こちらのスケジュールは絶対ではなく、当然調査の経過等により調査内容が変更、追加になることもあろうかと思えます。その際には、皆様にご相談の上、進めさせていただきたいと考えております。

このスケジュールについて、行政視察先、参考人招致の案などあればあわせてご意見を頂戴できればというふうに思います。

(小松良行委員) 前回もいろいろと視察についてはお示しはしておりましたけれども、ただいま川又委員のほうからも浜松という名前も出てきまして、非常に関心があるところで、そこはぜひ押さえておきたい場所だなと改めて感ずるところではありますけれども、例えば岐阜県の多治見市、たじみ音楽でまちづくり協議会などというものを官民合同で立ち上げておりまして、活動する団体の呼びかけやボランティアの呼びかけ、またにぎわいづくり、駅中心にした圏内、半径このぐらいのところがそういった音楽ゾーンなのだよというような、音楽ゾーンをつくり出して行って、そこでさまざまな、音楽学校もあることから、学生や市民を中心に音楽ファンを集めてにぎわいのあるまちづくりをしていこうという事業が展開されておりますので、ここも改めて1つ候補に挙げてみたいなと思っていました。

(川又康彦委員) 参考人招致について確認したいのですが、時期をずれて1回、2回、3回という感じで入っているかと思うのですが、これはイメージとしては何らかの想定みたいなのはあるのですか。

(二階堂武文委員長) 事務局のほうで説明させていただきます。

(書記) 事務局ですけれども、スケジュールちょっとごらんいただくと、なかなか特にことしの日程というのはかなりタイトなものがあるかと思えます。まず、参考人招致①としては、イメージなので

すが、今のところ古関裕而さんのまずはそういった足跡や功績を皆さんのほうで確認した上で、そういった古関裕而さんの功績とか、そういったのを発信されている方たちの活動というのをここでちょっと押さえておけばいいのかなということで1回目考えています。

それが終わった後、当局説明ということで、市の取り組みという状況をお聞きして、それから行政視察とか、そういったのに流れていきまして、年度が明けてドラマが始まってきたところで例えば記念館の視察であったりとか、あとはそのほか例えば音楽文化アドバイザーの三浦さんをお呼びしてお話を聞いたりとか、あとはもう一つ参考人で予備で入れてありますけれども、そのほか皆さんから何かこういった方というのがあればそういったところに入れ込みながら、行政視察で得た知識や当局説明で得た知識、参考人招致で得た知識というのも交えて、もう一度そういった方たちからお話を聞く機会というのをとればいいのかというかなというように。あと、場合によっては③の参考人招致を例えば意見交換会に変えて、町なかで頑張っている方たち、事業を展開されているような個人事業主の方とか、そういったまちづくり、これから福島市がまちづくりしていく上でそういった町なかで頑張っている方たちというのもないがしろにできない部分も当然出てきますので、そういった方たちから例えば意見を聞くというのも可能性としてあるのかなということで、そういったところも含めて参考人招致をやるような形で入れさせていただいているものです。

(小松良行委員) 行政視察の目的地を考えるにあたって、やはりこうした音楽や文化、古関裕而のまちづくりはやっているところないでしょうから、しかしこういった文化、音楽などに類似するまちづくりを手がけた人とか、あるいはそういった自治体関係で、これは事業は役所の人間でなくても、前段で一回こういった事業をやっているところの人とか、あるいはそういうことを学術研究として、まちづくりというところとざくっとしてしまっていて、どういう大学の先生なのかよくわかりませんが、何かやっぱり一回前段で、古関裕而の足跡とかというところだけではなかなか行政視察に入っていくような今話聞くと感じがするので、こうした文化的な取り組みでのまちづくりの事例などに詳しい方にご高説いただいて、それをもってその際に視察に行った際に視察内容がさらに深まっていくのではないのかなという気がするのですが、その点はどう考えますか。

(二階堂武文委員長) 今小松委員のほうからお話ありましたが、古関裕而研究家の方から基本的な知識を得たというところがありましたが、その場合は今小松委員のほうからお話あった例えば音楽的なそういった手がけた人とか何かのお話を聞くと、タイミング的には小松委員としては、行政視察に入る前にそういった方の音楽イベントとか何か手がけた人のご意見も聞いた上で視察に行ったほうがいいのではないのかなということですよ。

(小松良行委員) そうです。

(二階堂武文委員長) そうしますと、2人とか、参考人招致ですから、行政視察に入る前に研究家の方と、あとこういった音楽イベントとか何か仕組みを考えた人とか。

(川又康彦委員) 事務局のほうから音楽アドバイザーの三浦さんのお話ありましたが、これま

での委員会の中で音楽アドバイザーの方への話というか、質問、もしくは一般質問の中でもそういったのが出てきて、多分古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーによるまちづくりという部分でかなりの部分その方もかかわっているのではないかと思います。聞いてみたら全然私はノータッチですと言うかもしれないですけども、わからないですが、当局説明で今現在やっているシンフォニーによるまちづくりとか、商工観光部関係で今やっている部分についての考え方とか、来年度に向けての考え方を聞いた上で、三浦さんが福島音楽についてのまちづくりというか、そういうのも、できる、できないは別として、思いが多分あるのではないかと思いますので、正直言って齋藤さんの話は本読めばいいので、1回聞きましたけれども、かなりご高齢の方でもありますし、その部分にプラスアルファのいろいろ細かい出来事みたいなのはお話しいただけますけれども、それをもってどうなのかという気がするので、そういうのを聞いてみたいという。

(二階堂武文委員長) その辺は事務局のほうでちょっと。

(書記) 今回参考人①で、まだ全然お諮りはしていないのですが、齋藤先生をお呼びしようというふうに考えていたのは、まず古関裕而さんに関するいろんな知識であったりとか、お話聞いた方は確かに皆さん何回かある方もいらっしゃるかと思いますのですが、実際のところそうはいっても、委員の皆さんの知識が均一なのかという部分もそうですし、あと齋藤先生自体のこれまでの取り組みというのもやっぱり1つ押さえておく必要があるのではないのかなという、古関裕而さんの知識を入れるのも目的ではあるのですが、齋藤先生のこれまでのいろんな市民の方たちに古関裕而さんのすばらしさとか、そういった部分を発信してきた活動自体も当然参考になってくる部分があるのではないのかなということで、そういった部分もあわせてお聞きした上で参考人招致ということで考えていたところです。

三浦さんにつきましては、もし入れ込むのであれば、例えば1月の下旬、行政視察前に入れるという事は可能なかなと思うのですが、三浦さん自体毎日福島市にいらっしゃっているかどうかちょっと確認してみないとわからないところがあったので、もしそういったところでご都合が合えば1月中に入れ込んでいくことは可能なかなというふうには思います。それをやった上で行政視察という流れをつくるということはできなくはないかと思しますので、そこはちょっと確認させていただいて進めることはできるかなとは思っています。

以上でございます。

(山岸 清委員) 今皆さん貴重なそれぞれの意見なのだけれども、これは道路とか庁舎つくるとかと違って、歌だから、どこつかんでいいかわからないのだよ。ただ、これはチャンスなのだよ。NHKがエールやっているでしょう。そうすると、あそこも税金でやっているようなものなのだけれども、視聴率うんと気にするのだよ、やっぱり。だから、上がるようにやってやるのには福島市も、あるいは議会も古関裕而でおもしろいことやっているぞという放送、特番でも、昨日見ていてびっくりしたのは、クローズアップ現代に突然ノーベル賞入ってくるのだから。そして、全部ノーベル賞ジャック

だよ、昨日、おとといあたりから。やっぱり何かの話題を提供する。だから、議会もおもしろいことやっているのだというイメージを、真面目にやってはだめなのだ。ちょっとふざけていてもいいから、NHKで取り上げるような、福島市議会で行政視察でこういうところに行ってこうなのだとかいうのを考えなければならない。だから、今いろんな先生ご意見聞くのもいいけれども、俺らの議会の中でこうやったらおもしろいのではないかいというやつを私らで考えなければならないのだよ。それでないと、台本読んでそれではこうしたらどうでしょうかなんてやったのではだめだから、けんけんがくがくやって、要するに古関先生も俺はずっと今までのイメージだと学校の歌ばかりつくっていたと思ったのね。そうしたら、違うのだよ。コロムビアで丘灯至夫と組んで結構出しているのだよ。そして、古関裕而と丘灯至夫のコンビは当時だって一番高いくらいだったって、作曲、作詞で。だから、高原列車は行くか、あとは結構戦中歌もつくっているから、露営の歌とかいろいろつくっているから、戦意高揚にはそれだけ貢献したのだからうけれども、何かおもしろいことを福島市も議会もやっているのだというのを、要するにエールの半ばあたりでばあんと出してやるとNHK視聴率ぐっと上がって喜んでしまうよ。だって、見てみな。ろうそくの本なんか増刷だよ。関係ないのに、それに刺激されたなんていって。だから、やっぱり音楽というのは空気みたいなものだけれども、結構影響力はあるから、そこらをつかんで何かおもしろいことやっているぞというのは市議会もやっている、あるいは市役所もやっているということで、やっぱりNHKに1回くらいクローズアップ現代あたりに30分番組でのるようにしなければならないよ。波恵ダンススタジオでそれを古関裕而の歌で踊りを出している。いいでしょう。

(二階堂武文委員長) 今お伺いしたお話というのは、今後参考人招致とか行政視察をする中で委員長報告のまとめの中にそういったアイデア的なものとか何か。

(山岸 清委員) だから、俺考えていたのは、この間も言ったけれども、今度の選挙のとき古関裕而の歌を歌って選挙カーで流そうと俺言ったのだ、選対。だめだ、そんな不真面目だからなんてポシャってしまったけれども、あそこのダムに行く途中で歌っていったのだ、六甲なんて。そうしたら、あっちから来た車びっくりしていた、運転手。事故にならないでよかったけれども。ただ、議会だから、みんなで次の選挙のときは古関裕而の歌を一曲歌いながらやろうなんて決議をしましたなんていったら、これは何だとインパクトはあるよ。

(石山波恵委員) 私も記念館に2回ほど行っていろいろ見て、古関氏がどんなことをやったかというのは大体ここの学校の校歌も、ここもつくっている、ここも、すごいなというのは私の普通に見てもわかるのです。これから古関裕而氏をどのぐらい知ってのレベル、古関裕而氏を、彼をどういうふうにまちの中というところのほうがすごく大事で、どういうふうにやって人を、なので古関氏を私たちがすごくこれからこんな人だったのだ、ああいう人だったのだということはそんなにすごく突っ込まなくても、そこに時間を費やすよりは、そういう音楽家の人がいるところからどういうふうなまちがにぎやかになって、どういうふうというほうの勉強で参考人の方に来ていただくほうが、何とな

くこれからヒストリーをずっと勉強というよりは、ある程度は知っている段階なので、もちろん彼をもっともっと知るということは大事なことですけれども、それよりも音楽のまちでいろんなところでまちがにぎわっているところの人の話を聞く、どんなふうな方法でやったのか、どんなふうにして人が来ているのかというふうなことがわかる方に話してもらったほうが、何となく彼自身を深く追求していく、そこに時間を費やすよりはいいかなと思うのですけれども。

(山岸 清委員) 今石山さん言ったやつで、あちこちの学校の歌つくっているのよね。だから、福島市に来たとき、ジュークボックスみたいにして、どこどこ学校の歌がありますよ、ぽっと押すと駅に着いた瞬間我が母校の歌が流れたなんて、100円入れてでもいいから、金取ってもいいから。そうすると、県外から来ると思うのだよ。自分の……。

【「記念館の2階にありますもんね、聞けるの」と呼ぶ者あり】

(山岸 清委員) うん。そういうやつでやればほかから来る人が福島に行ったらこうやって俺のほうの歌やっていたのだなんていたり、あと六甲おろしだけでないからね。巨人軍の応援歌もつくっているから。あと、早稲田も慶應もつくっているから。そういうやつを集めて、そうすると相当な数だけれども。そういうふうにすれば県外から聞きに来ると思うのだ。

(二階堂武文委員長) ありがとうございます。先ほど石山委員のほうからご発言ありましたけれども、私も本当に限られた時間の中でどこに時間をかけて調査を進めていくべきかといったときに、すごく悩ましいところはあるなというふうには感じています。私どもが議論するにあたって、それぞれ古関裕而氏に関する知識というのは本当に個人差もありますし、最低限の知識は共有情報として持つていなくてはならないのだろうなと思うのですが、ただ限られた時間の中で、先ほど小松委員のほうからもありましたけれども、実際いろいろイベントを仕掛けられた、先日来出ていますけれども、まちづくりとか、にぎわい創出とかって熱い心を持った人ありきみたいところもすごくあるので、やはりそういった部分が1つ鍵になるので、そういった方のお話、音楽を通してまちづくりとか、そういった方のお話をお伺いするというのもやっぱりすごく大事だと思うのですが、この辺は本当に書記のほうともちょっと話ししながらいろいろ……。

【「委員会またやればいいでしょう。10月下旬とかに……」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) この辺に対して皆さんのご意見というのはどんなものですか。開ける回数的に、ここにスケジュール表にあるような回数で今後やっていくしか物理的にはないのですが、川又さんから古関裕而研究者の方を知っていらっしゃるということでご意見ございました。ほかにもこの方を知っていらっしゃる方いるかもしれませんが、どんなものでしょうか。

(阿部 亨委員) 今意見出たように、私はどの人が参考人招致としていいのかちょっとよくわからないですけれども、古関裕而氏、人そのものに関しては、先ほど来意見出ているように、特には知るといえるか、今の現段階の情報の共有でも十分なのかなと思うのです。だから、さっき石山委員がお話したように、そこに時間を割くよりも別なほうにですか、参考人招致も呼んだほうがいいのかと思

います。曲もいっぱいつくっているし、いろんな、巨人も阪神も、早稲田も慶應も、ある意味節操ないような感じで、結局商売というのはそういう部分もあるから、どんどん作曲なんかしたのだろうとは思いますが、そういう部分はとりあえずはおいておいても、先ほど言った参考人招致としてはそこを知る部分は別に省いてもいいのかなとは思っています。本当にスケジュールもタイトであるので。

(高木直人委員) 私も先ほど来皆様の意見聞いていまして、やはり一番は、調査の目的にもありますけれども、古関裕而氏と福島市のにぎわい創出という部分何とかつなげられないかということだと思うのですが、やっぱりそこには全国から福島にぜひ行ってみたいという、そういう何かが必要だと思っております。それが古関裕而さんの何かであったりとか。それで、ちょっと私考えていたのが、NHKなのだと思いますけれども、ドキュメント72時間という番組がありまして、ある1つの目的だったり、ある1つの施設だったり、そこに定点カメラを72時間据えつけて、そこに対する人の動きをずっと撮っていくわけなのだと思いますけれども、例えばそれがカップラーメンの自販機であったりとか、あとピアノが置いてあって、誰でも自由に弾けますよという、そこでいろんな人が来て弾いて、そこで人が集まってきて、知らず知らずにわあっと拍手が起きて、弾いている本人がびっくりしたりとかという、結構そういうのがあったのですけれども、なので例えば何かそういうドラマの聖地みたいな感じで福島に行けば古関裕而さんにかかわるあれが駅前に置いてあって、ぜひそれ見てみたいと、それがドラマでもし取り上げられればもちろんそれに関連性も出てくると思うのですが、何かそういう形でうまく人を全国から呼べるような、そういったもの、それを何がいいでしょうかというようなことを何かご意見聞けるような方を例えば参考人としてお呼びしてはいかがかなというふうにちょっと考えました。

【「聖地巡礼だ」と呼ぶ者あり】

(高木直人委員) 聖地巡礼みたいな、そうですね。

(二階堂武文委員長) 音楽イベントプロデューサーみたいな。

(高木直人委員) イベントでもいいですし、何か古関裕而さんにかかわる、そういったものであったり、記念館もちろんありますけれども、例えば駅前とかにそれがあって、そこにばあっと人が集まって、ではもっと古関さんを知りたいのだったらこの先に記念館もありますよというような形で人の流れも生み出すような、そういったものがないものか、それについての意見が、どういったものを例えばそういう人を呼び込めるようなものが古関裕而さんにはあるかなというのを伺いしてみたいかなというふうに考えました。

(二階堂武文委員長) どういった人から聞けばいいかですね。

(高木直人委員) そこも難しいのですけれども。

(佐々木優委員) では、私も参考人招致についてなのですが、経済民生常任委員会で古関裕而を生かしたにぎわいの創出に関する調査をやるということにあたって、やっぱり共通の同じ認識にな

るべきというふうに思うのです。それぞれ皆さん自分で記念館に行かれていますし、私も行ったことがありますけれども、やっぱりそれぞれの認識の上でわかっているというところにいらっしゃると思うのです。例えばこの後議会報告なんかでも共通の話をしていく上でも、やっぱりある程度古関裕而さんに対する認識のレベルを一緒にしておくということは重要なことというふうに思って、事務局から提案あったこの参考人招致、齋藤先生のお話をみんなで聞くというのはすごく意義あるのではないかなというふうに思っています。その齋藤先生という方がこれまで古関先生に対する研究を進めてきたということもすごく重要な財産だなというふうにも思うのです。なので、そのこと、市民の活躍してきた功績というか、そういう活躍の場を議会で作るということも大事なのではないかなというふうにも思うのです。というところでした。

(川又康彦委員) 齋藤先生からお話伺う際に、聴取内容という形でこちら側からオーダー出すではないですか。その部分で人となりの部分はいいですよとは書かないけれども、それ以外のこれまで、さっき書記が言ったようなこれまで古関先生をPRするためにどういうことをやってこられたのかとか、そういったものを中心に聴取させていただくということは、私もその話は聞いたことないので、その部分は非常に有意義な部分はあるかな。もし、これはまた話が違うけれども、例えば招致する場所が、場所ってここではないよね。例えば古関裕而記念館でやるとかというのは可能。

(書記) 委員会では基本的には一回ここで開いて、意見交換もそうなのですけれども、一回ここで開いて、場所を移動するという形は可能かと思うのですけれども、必ずここに集まっていたらいい、開きましたというていをとらなくてはいけないので。あと、古関裕而記念館のそういったスペースの状況にもよるのですけれども、ちょっと確認はさせていただきたいと思いますが、そういったのはできなくはないとは思いますが。ただ、どちらにしても一度ここにお集まりいただいて委員会を開いた上で、マイクロバスか何かに乗って移動してあちらでやるということは、そういう流れになるかと思えます。

(川又康彦委員) 委員会ってここで開かなければならないとなっていたわけ。現地集合、現地解散はだめですよみたいなのは書いてあったと思うのだけれども、一回ここに、集合は福島市役所発ならいいみたいな感じだったような記憶もあるのだけれども、確認してもらえますか。

(書記) 費用弁償とかそういった関係もありますし、おのおの現地集合というふうになると……。

(川又康彦委員) それは多分できない。

(書記) ええ。そういったのがあるので、ここで一回集まって委員会を開いてというような形をとっているのだと思うのですけれども、ちょっと確認させていただきます。

(山岸 清委員) 聖地巡礼だけれども、やっぱりおくりびとなんかはそこで撮影したところが聖地になっているわけだ。だから、実際そこに生まれたというところであれば、生家が残っていればそれは聖地になるだろうし、あとはやっぱりシナリオを書いてもらって、花見山で最初の出会いがあったなんて。あとは、飯坂温泉のたばこ屋に帰りに行ったとか、やっぱりある程度高湯も土湯も行ってもらうしかないのだよ。そして、やっぱり景色がいいところとか、聖地巡礼になるようにして、それが次

の福島の観光にうんと、だからやっぱりフルーツラインでナシ、モモ食ってもらわなければだめなのだよ。そのシーンは必ず入れてもらうとか。

【「それはなかったから」と呼ぶ者あり】

(山岸 清委員) 大丈夫、そのころからやっていたから。あとはスカイラインも開通していたなんて。

(高木直人委員) 近いうちに、情報ですけれども、民家園でエールのロケが予定されていて、エキストラも今随分募集されているということなので、民家園は間違いなくドラマに登場してくるということですので、そこも回遊の一つの拠点ということになるのかなと思いました。

【「四季の里も入れてもらうべ」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) では、よろしいでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) 先ほど佐々木委員と川又委員のほうでちょっとやりとりしていただきましたが、正副、事務局とも相談の上、第1回目の参考人招致ということで、古関裕而研究家の方をお呼びしてというところでしたが、限られた時間なので、テーマを、川又委員のほうからちょっとありましたが、絞り込んだ形でイベント絡みの話とか、どこまでそういった情報をお持ちかどうかという部分も事前に調査してみないとわかりませんが、その辺も調べた上で、もしそういったお話も聞けるということであれば、皆様のほうにお配りしたような形で最初の参考人招致につきましてはよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) では、そのようにさせていただくにしても、先ほど来イベント関係の熱い気持ちを持った人の話を聞くとかいうことは2回目以降、先ほど三浦さんの話もちょこっと出ましたね。早目にお呼びできるのであれば、場合によっては当局説明の前にもしできれば。

それ以外に何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、今伺ったような形で、私のほうで簡単にまとめさせていただきましたが、進めさせていただければと思います。

協議事項は以上となりますが、ほかに皆様からご意見はいかがでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) なければ、以上で経済民生常任委員会を閉会いたします。

午後2時36分 散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文